

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791800032		
法人名	有限会社くばの里		
事業所名	グループホームくばの里ハウス		
所在地	沖縄県国頭郡金武町字金武4196番地147		
自己評価作成日	平成27年12月12日	評価結果市町村受理日	平成28年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/47/index.php?action_kouhvu_detail_2015_022_kani=true&JigyosvoCd=4791800032-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成28年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

金武町の町木が、名前のゆらいどになっており、地域に根差した事業所を目指し、家庭的な雰囲気を入居者が明るく楽しく過ごせるように支援しています。住み慣れた地域、環境で近隣の方に事業所への理解していただけるように行事などへの参加の声かけを行い、交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は同法人のデイサービスやグループホームと隣接する敷地に開設され、他事業所と連携を図り支援している。地域の恒例行事に利用者に参加して地域住民と交流すると共に、事業所の行事に住民を招き、馴染みの関係継続を支援している。地域ケア会議において、独居高齢者や防災対策について情報交換し、行政、包括、町内他事業所等と連携を図っている。利用者の状態に応じて医師も交えて話し合い、訪問診療や看護師と連携し、今年度、事業所で看取りを実施している。モニタリング、評価を職員全員で行う事により、利用者の状況を把握し、利用者それぞれに合わせた個別ケアの情報を共有して統一した支援にあたっている。利用者の思いを大切にし、「自宅に帰りたい」の声には、自宅へのドライブや家族の協力のもと、帰宅の実施や自宅復帰を実現させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 28年 3月 8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念がなく、現在法人の理念を共有している。今後、職員と一緒に事業所独自の理念を作成したいと考えている。	法人の経営理念の下、介護方針を作成しているが、事業所独自の理念作成のため職員より言葉を集めている。職員は法人理念を毎朝唱和することで意識付けして共有し、利用者それぞれの思いを大切に、「安らぎを与える」よう支援している。	事業所独自の理念作成にあたり、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念の作成に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の途中に顔なじみの方がおり、声かけを行ったりしている。	利用者は事業所近隣を散歩する際、地域の方と挨拶を交わしている。町の福祉祭りや地域行事くしゆくい等に参加すると共に、保育園児との交流や事業所の運動会や敬老会等の行事には、ボランティアによる踊りの参加がある等、地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事に近隣の方も参加してもらい、入居者と交流を図る場を設けている。入居者の生活の様子や事業所の様子を見てもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告だけでなく、事故報告などを行い、入居者の状況について報告を行い、意見を頂いている。	運営推進会議は年6回定期的に開催し、利用者、家族、地域、行政が参加している。会議では、利用者や活動状況、ヒヤリ・ハットや事故等の報告を行い、事業所での看取りや事故対策、消防訓練等について意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や行事などへ市町村の担当者に出席していただき、情報交換を行っている。	運営推進会議や事業所行事へ町職員の参加があり、情報交換を行っている。地域包括よりキャラバンメイト講演会講師の依頼を受け、寸劇を披露している。地域ケア会議に参加し、地域高齢者の情報を共有し協働して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム連絡会での研修に参加し、理解する学びの場を設け、申し送りやミーティングなどで話し合いを行い身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない方針の下、家族へは入居時にリスクを説明し理解を得ている。利用者は日中、玄関やリビングから自由に入出している。夜間不眠の利用者に廊下を一緒に歩いたり畳間で過ごしてもらう他、医師と服薬調整等連携し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡会での勉強会に参加し、虐待防止について学び、ミーティングなどで話し合いを行い防止に努めている。		

沖縄県(グループホームくぼの里ハウス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム連絡会などでの研修会に参加し学ぶ機会を設け、必要に応じて活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時や契約時に本人やご家族に説明を行い、署名捺印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情・意見受付について掲示し、受付箱と用紙を用意し、直接管理者や職員に話してもらえるような雰囲気づくりをしている。	利用者の意見や要望は、日々の会話の中で聞き、家族からは来所時に意見を聞いている。本人や家族から、自宅復帰に向けてリハビリの要望があり、立ち上がりやベッドへの移乗等、練習を重ねている。看取りの希望には支援体制を整備し叶える等、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は毎月のミーティング、その都度意見を聞く機会を設け、反映させている。	職員意見は月1回のミーティングや毎朝の申し送り、日常会話の他、半年毎に代表者との面談で聞く機会としている。職員の意見を反映し利用者の状態に合わせて勤務時間帯を変更している。法人内研修や外部研修参加の他、資格取得の補助を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、事業所に来て入居者や職員へ声かけを行い、要望などの意見を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保し、参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会やその他研修会など、学習する機会を作り、介護の質の向上に努めている。		

沖縄県(グループホームくぼの里ハウス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時に管理者、職員が本人と面談、体験してもらい、顔見知りになってから入居につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、介護支援専門員やご家族から要望などを聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談時など他のサービスも含めどのような支援が必要かをご家族と相談し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし、調理の下ごしらえ(野菜のつくりいなど)洗濯物たたみなどを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族の関係づくりのため、面会時などに情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染みの方の面会時、他入居者、職員との交流を持っている。顔なじみになることで関係がとぎれないよう支援している。	自宅近隣の方が家族と来所したり、元教員の利用者を訪ねて教え子が訪れている。利用していたデイサービスへ行き来、馴染みの理美容室に家族と出かける等、関係を継続できるよう支援している。本人や家族、地域の方から地域との関係性の把握に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と食事などができるように座席の配置を工夫したり、職員が声かけを行い雰囲気づくりに配慮している。		

沖縄県(グループホームくばの里ハウス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や在宅に戻られた方のご家族へ状況確認を行ったり、入院された方への面会を行い経過の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活は、集団にとらわれず個々のペースに合わせた支援を行っている。	利用者の思いや意向は、日々の会話の中で直接本人から聞き把握している。「家に帰りたい」の思いを介護計画に位置付け、ドライブで家を見に外出し、家族の協力を得て帰宅を実施する等、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族から情報収集を行い、面会時にも情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身状態の変化などで本人の有する力など申し送りなどで情報共有し支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時や入居者の状態変化があったときにはその都度話し合いを行っている。申し送りなどで情報を共有し、対策検討を行い介護計画に反映している。	担当者会議で利用者、家族の希望を聞き、医師の意見を参考に介護計画に反映している。更新時と状態変化に応じて随時に計画の見直しを行っているが、短期、長期の目標の期間設定が同じである。モニタリング・評価は毎月職員全員で行い情報を共有し個別支援している。	利用者の望む生活を実現するためにも、短期目標の積み上げが長期目標の達成に繋がるよう期間の設定に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や管理日誌記録し、勤務引継ぎ時の申し送りや申し送り連絡帳に記入し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝の申し送り時に入居者の状況を報告し必要な支援を行っている(外出予定など申し送り連絡帳に記入している)		

沖縄県(グループホームくぼの里ハウス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや近隣の保育園児の訪問交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際同行し、主治医へ情報提供を行い、適切な健康管理が行えるよう支援している。	利用者はこれまでのかかりつけ医を受診している。受診は、他科も含め家族対応としているが、独居や服薬調整時等は同行する他、車イス利用者は送迎し、訪問診療時は、看護師が対応している。受診前後の情報交換は、家族と口頭や文書で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態を職場内の看護師や往診時に情報提供を行い、指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、可能な限り同行し情報提供を行い入院後の面会やご家族と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療連携や重度化した場合のいこうについて確認し、体調変化時などにご家族と確認をしている。	「重度化した場合の指針」と「看取りケアの指針」を作成し、契約時に家族に説明し書面で同意を得ると共に、状態変化に応じて主治医を交えて話し合い、再度意向を確認している。看護師や訪問診療と連携の下、家族、職員が協力し、今年度看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応マニュアルを整備し、対応時の流れを見やすい場所に掲示している。AEDの使用法の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練や金武町防災訓練に参加し避難訓練を実施している。	消防訓練は年2回夜間を想定し、消防署や地域住民参加の総合訓練と自主訓練を実施する他、町主催の防災訓練にも参加している。防災設備や災害(火災・地震・津波)対応マニュアルを整備すると共に飲食料や生活用品等、5日分の備蓄を整備している。	

沖縄県(グループホームくぼの里ハウス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉や接し方などによって自尊心を傷つけたり排泄支援のとき、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	事業所は利用者の人格を尊重したケアについて記載したプライバシー保護マニュアルを浴室前に掲示し、職員に周知している。職員は、「自分達が嫌な事は利用者も嫌な事」と共有し、利用者の尊厳を傷つけない言葉かけや接し方を心がけて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し説明を行いながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にこだわらず、個別支援ができるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着がえや入浴の際の衣類を本人に確認している。外出時には、本人の好みで装うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は行えないが、野菜の下ごしらえを職員と一緒にしたりする。味付けなどを入居者に確認し好みに合わせるようにしている。	食事は利用者の希望や旬の食材を取り入れ三食、事業所で調理している。利用者は食材の下拵えや食器洗い等に参加している。食事は陶器に彩り良く盛り付け、職員も同じ物を一緒に摂り、利用者のご飯の炊き方や味付け等の会話をしながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立をもとに入居者の好みなどを取り入れ調理している。摂取状況を把握し摂取量の少ない入居者には補食を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後などや義歯のない方にも口腔ケアを行っている。歯ブラシだけでなく、口腔用ガーゼなどを使用している。		

沖縄県(グループホームくぼの里ハウス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表で排泄パターンを確認し、日中は尿とりパットを使用しないように支援している。	排泄記録表から排泄パターンを把握し、適時の声掛けや歩行訓練を行い、日中は全員トイレでの排泄を支援している。夜間はポータブル使用とトイレ誘導を支援する事で綿パンツ対応やパットの使用軽減に繋げている。失敗や皮膚に配慮しパットを見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を確認し、水分や食事に対応している。嚥下の難しい方には、黒糖ゼリーを作りのど越しに工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に曜日を決めているが、一人ひとりの希望などに合わせて支援している。	入浴は男女別に週3回、1日置きを基本としているが、利用者の希望に合わせて柔軟に対応し、夏場は毎日支援している。入浴を嫌がる場合は、時間を置いての声掛けや職員を替えて対応している。同性介助は、体制上対応できない時は了解を得て支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息時や就寝時間を定めず、テレビを見たり、雑談したり一人一人に応じている。安眠できるように室温などの調節を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を個別介護記録に綴り、職員一人一人が確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地元の小学校歌を歌ったり、軽作業(洗濯物たたみなど)、散歩、外のベンチに座っての気分転換などの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩やドライブ、法人内の事業所の友人と交流、家族との外出などの支援を行っている。	利用者は日常的に地域を散歩すると共に、隣接のデイサービスやドライブをしながら買い物等に出かけている。年間行事を計画し、季節の花見や初詣等に出かけ気分転換を図っている。個別には家族の協力の下、法事の参加や旧盆の帰宅等が支援している。	

沖縄県(グループホームくぼの里ハウス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理をすることは難しく、外出するときなどにお金を所持して使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができる人はいないが、電話をかけた時、ご家族や知人からかかってきた時には話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光や空調などの調節を行い、テレビの音量調節にも配慮している。	事業所内は明るく広々とし換気にも配慮されている。対面式の台所からは、調理の匂いがし、食堂と繋がる畳間は、ゆったりと過ごせるようテレビやソファを配置し、家庭的な雰囲気となっている。家族の宿泊や看取り等、多目的に利用できる部屋も確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂、玄関などにソファや椅子を配置し、入居者が思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居後、使い慣れたものなどを居室に置き、ゆっくり過ごせるようにしている。ご家族が居室でゆっくり話ができるようにしている。	居室はベッドとダンス、洗面台や冷暖房、時計の他、窓には二重カーテンが備え付けられている。事業所は入居時に自宅から馴染みの物の持ち込みを説明し、利用者は使い慣れた寝具や家具、写真等を配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを配置し、入居者が立ち上がり運動ができるようにしている。トイレや浴室など車椅子や四点歩行器などでも出入りできるようにしている。		